

## 第 88 回瀬戸内集談会に参加しての学び



令和元年7月9日（火）

第88回瀬戸内集談会が岡山市内で開催されました。

瀬戸内集談会とは、瀬戸内にある国立療養所ハンセン病施設3園（邑久光明園、大島青松園、長島愛生園）の職員が日頃の研究成果を発表する会です。

午前18題の研究発表、午後から今年度のメインテーマ「入所者一人ひとりが心豊かにすごせるために」の内容で、沖縄愛楽園野村園長の特別講演、各園の代表者によるパネルディスカッションが行われました。

看護学校から1年生が参加して各園の入所者さんの思いをチームみんなで共有して入所者さんに最善を尽くして関わっていることを知ることができました。学生たちも自分が今できることは何かについて考える機会となりました。

<学生の学び 代表者3名>

42期生 安藤麗香

私が心に残った話は、愛生園の『望みを叶える取り組みについて—98歳の花嫁—』です。102歳の夫より、「いつも自分の世話をしてくれている98歳の妻に対する感謝を伝えたい。結婚式を挙げたい。」と介護員が聞き、夫に残された時間が少ないため妻と話し合いを重ね結婚式を挙げることになりました。この結婚式を成功させるために、看護職員が結婚式の衣装や飾り付け、何かあった時の対処などを考え、結婚式当日を迎え、成功し、夫と妻は感謝の気持ちで涙があふれたそうです。夫は亡くなる直前まで結婚式を挙げたことをうれしそうに話していたそうです。

この発表を聞いて日々の何気ない会話に入所者さんの望みや願いが隠れており、それを看護師や介護員がコミュニケーションを通して理解し、受け止め、少しでもその人の人生に後悔がないように手助けをしていることを知った。長島愛生園では一般の病院や施設ではなかなかできないことをしていると感じました。また、1人ひとりの入所者さんと向き合い関わっていく大切さを学びました。どの口演発表からも入所者さんのことを第一に考え、その人に合わせた看護・援助・サポートを行っていき、喜びの言葉が聞けるように考えながら看護を行っていることがわかりました。今日は、愛生園に来ていなかったらこのような貴重な話を聞くこともないと思いました。これから看護を学ぶ上で、愛生園でしか学べないことがたくさんあり、愛生園以外の療養所からもたくさんの学びがあったと感じています。入所者さんと関われる貴重な2年間を大切に、自分が入所者さんに今できることは何かを考えていきたいと思っています。

今回、瀬戸内集談会に参加して沢山のことを知り、学び、考えることができました。

その中で印象に残っていることは、ハンセン病の入所者さんに対して看護師のみが援助を行うのではなく、他職種と連携をしてチームをつくり日々の援助をおこなっていることを改めて感じることができました。他職種と連携をして看護を行うことで理学療法士から見た全盲の入所者様のリハビリテーションでの気づきや歯科技工士からみた経口摂取の支援方法など看護師では気づきにくい問題も他職種との連携によって気づくことができ、さらにより良い援助を提供できると思った。また、自分一人では何もできないことと同時に一人で看ることで対象を看る視点が狭まるのだと知ることができました。

これから、看護師になっても今回聴いたこと、思ったことを忘れずにいたいと思いました。それと同時にたくさんの患者さんや医療者と関わっていくことで自分の考えの幅を広げていきたいと思いました。これからも全国の療養所の入所者さんの年齢は上がっていき、人数も減少していくと思いますが、「生きていてよかった」と思えるように入所さんと関わっていききたいと思いました。

特に印象に残っている講演は、沖縄愛楽園野村園長の特別講演です。そこで学んだことは、心豊かに生きる支援をしていくということです。過去に何があったかを知ること大事ですが、入所者さんが「生きていてよかった」と思ってもらえるように現在から未来を充実させていくことが大切だと学びました。

沖縄愛楽園では、入所者さんのためにいろいろ考えていて、すごい施設だなと思いました。病院だったら諦めているような「ヘリコプターに乗りたい」という要望にも応えており、全職員さんが入所者さんの最善を考えていると感じました。また、テレビの放送内容を見たときに、入所者さんが素敵な笑顔でテレビに映っていて、その表情が生き生きしていたのがすごく印象的でした。そのような表情になるために試行錯誤されている沖縄愛楽園の職員さんたちはすごいなと感じました。大島青松園、邑久光明園、長島愛生園の職員の方々も入所者さんのためにと動いていますが、沖縄愛楽園の方々の動きを見ていると「叶えられるものは叶える」という姿勢がすごく伝わってきて、今後、入所者さんや患者さんと接していくうえですごく大切なことだと思いました。

そして、その夢を実現するにはチームで協力していくことが大切だと学びました。今、一学年は9名と少なく、みんなで協力して学校生活を過ごしていくことが大切だと思います。一人一人が重要な役割を担っているという意識を持って日々過ごしていくことが大切だと思いました。